

2006年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2006年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2006年度秋季総合分科会の際の9月20日(水)14時35分より、大阪市立大学田中記念館大会議場にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第11巻3号の会報123でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

特別賞

中村 誠 (東北大, 助教授)

業績の題目: 非線形双曲型偏微分方程式の初期値境界値問題の研究

非線形偏微分方程式の初期値問題を主に研究しています。既知の結果を調べる度に、日本の研究者による貢献の大きさに驚きます。これまで御指導を頂きました方々と、共同研究者の方々に感謝しております。

奨励賞

勝良 健史 (北大, 学振PD)

業績の題目: 位相力学系と C^* -環

位相構造と代数構造が絡んだ数学が好きで、作用素環論を専攻することを決め研究を続けてきました。お世話になった先生、先輩、そして友人達に感謝致します。これからは分野にこだわることなく様々な数学を楽しみ、私にしかできない研究をしていければと思っています。

佐治健太郎 (北大, 学振PD)

業績の題目: フロントの幾何学と特異点の研究

可微分写像の特異点論の立場で幾何を研究しています。具体的で目に見える対象が好きなので、目に見えるからこそより深くなしうるという研究を目指しています。お世話になった多くの方々への感謝を忘れず、これからもがんばっていきます。

藤川 英華 (上智大, 助手)

業績の題目: 無限次元タイヒミュラー空間上に作用する擬等角写像類群の力学系

無限次元タイヒミュラー空間上で観察できる特異現象に注目し、特にモジュラー群の作用を複素解析学的に研究しています。軌道の様相は複雑ですが、その本質を少しでもよく表現できる手法を見つけていきたいです。

吉野太郎（京大，COE）

業績の題目：Lipsman 予想の解決と非リーマン等質空間の不連続変換群論の研究

数学者としても人間としても尊敬できる先生方に恵まれ、これまで研究をしていくことが出来ました。専門である Clifford-Klein 形の幾何学は生まれて間もないですが、今後この分野の発展に携わっていただければと思います。

依岡輝幸（静岡大，講師）

業績の題目：連続体の組合せ論的研究

私は公理的集合論，特に連続体の構造に関連する研究を行っています。公理的集合論は、古典的な集合論の継承である無限集合上の組合せ論と、(数学基礎論とも呼ばれている) 数理論理学の手法も積極的に用いる (連続体仮説など) 数学的命題の数学の体系からの独立性証明が交錯する、非常にエキサイティングな分野だと思っています。今まで以上に研究に努力していく所存です。